

交通政策審議会航空分科会技術・安全部会

第4回技術規制検討小委員会 議事概要

日時：平成29年6月30日（金）10：00～12：00

場所：中央合同庁舎4号館 1階 108会議室

議事概要：

○別紙2に対応分類がB2とB3とされた項目の工程表が定められているが、B3の項目については平成30年以降のどこで対応をするのか。また、B2の項目については、平成29年度で対応することだが、対応したことをどのように確認するのか。

→技術安全部会で定期的にフォローアップを行っていく予定である。

○平成30年以降はフォローアップの中で適宜見直しを行うべき。

○義務報告制度について、委員からの意見として情報共有の必要性を報告書に反映いただき感謝する。個別要望ではないため工程表に記載されてはいないものの、重要な課題なので計画的にしっかり進めていってほしい。

→既に関係者と調整を開始しており、今年の早い時期に進めていきたい。

○分類Aとされた項目については、担当によって対応のばらつきがあるようなので、現場でも周知を徹底するべき。

→内部でも周知するが、各団体にも協力いただき、対応していきたい。

○分類Aは「現行制度で対応可能」なものであるが、そういったものが要望として全体の3割近くもあがっていることをきちんと認識すべき。常日頃からの事業者と当局とのコミュニケーションに不足があることを示しているのではないか。事業者は、許認可権限を有している当局に対して物が言いにくいこともあると思われるが、航空の安全に向けて両者が積極的にコミュニケーションをとっ

ていくべき。

○今回Cに分類された項目であっても、環境の変化はこれからも続いていくので、不断の見直しを行っていただきたい。また、PDCAサイクルを回すためには目安箱は有効なツールである。内容により公開範囲の限定は必要かもしれないが、寄せられた要望等は公開していくべき。

→技術安全部会を年に2回程度開催しており、要望等については公開する方向で検討している。

○5年前の規制の見直しでもAが多かったが、今回もこれだけ出てきており、情報共有をしていくだけでなく文書化して公開する等の抜本的な改善を検討した方がいいのではないかと。内部から改善しようという動きがないと変わらないので、改善を評価する仕組みを検討すべき。

○今回のように局を挙げた集中的な体制での検討と、目安箱での検討ではレベルに差が生じるのではないかと。経過するにつれて、目安箱が形骸化してしまうのではないかと懸念している。

→職員自らが目安箱をお知らせするとともに、寄せられたご要望を確認しつつ今回のような取組みと合わせて適切に対処してまいりたい。

○目安箱の管理はどこが行うのか。また、技術的な要望に限らず幅広く要望を受け付けてくれるのか。

→これまでは総務課が管理していたが、今後は安全企画課で管理する予定である。また、技術的な要望に限らず幅広く受け付ける予定である。

○今回の要望は小規模な事業者からも提出されているが、ビジネスジェットや小型機については、オリパラや人材確保に繋がる大きな政策課題として検討していただきたい。

○要望者からのフィードバックはあったのか。

→WGでもオブザーバーとして事業者に加わってもらったのはよかったと判断している。

(要望者) ○丁寧に対応いただき感謝するとともに、目安箱についても期待している。一方で、今後も想定外の要望が出てくると考えられるので、継続的にコミュニケーションをとっていただきたい。

(要望者) ○5年前に対象外だった要望についても今回取り扱っていただき感謝している。

(要望者) ○他社からの要望も社内で共有させていただく予定。

○このような取組は積極的にPRしていくべきではないか。また、米国ではプライベートジェットの高利便性が高く、保安検査も厳しいので安心できるが、日本の航空当局の方も米国の現場を確認しておくべきではないか。